

令和6年度

板野南小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 話す・聞く、書く、読む力を高める。(目的意識を持ち、筋道を立てて自分の考えを伝える。)
- 主体的に学習に取り組むことができる児童の育成。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 樋谷幸司	委員 ・教頭 平尾恭子 ・教務主任 樋谷幸司
	・特別支援教育コーディネーター 工藤幸、北尾教子 ・研修主任 寒川かおり ・人権教育主事 寒川かおり

校長

吉野 育也

【各校の取組状況の把握について】

研修の機会を生かして、取組み状況について報告する場をもつ。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や決まった課題にまじめに取り組める児童が多い。 ●四則計算・漢字の読み書きなどの基礎基本的な学習の定着及び語彙力の乏しさが課題である。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・語彙数が増え、目的に応じて、文章の内容や意図を正確に読み取ることができる。	・漢字・計算の反復練習をし、定期的に確認テストをする。 ・国語辞典やタブレットを効果的に活用し、語彙力を高める。(3年生以上) ・大切な言葉にラインを引かせることで、文章を読み取る手がかりとさせる。	・漢字・計算の力はついてきても、使い方(応用する力)が身につけていない。 ・文章を書くときには漢字で書くように促し、漢字を文章中で正しく使えるようにする。	・教室内に新出漢字を提示し、全員が覚えたら外していた。算数でも同様に大事なことは視覚的に提示した。 ・説明文は色分けした付箋を使い、文章の構成を意識させた。 ・漢字については、習ってから時間が経つと忘れてしまっている児童がいる。自学でも漢字の学習をする児童は、定着の割合も高く進んで活用する様子が見えた。 ・言葉の意味調べをする時に例文も書き留めるようにすることで、言葉の活用の幅が少し広がった。 ・基礎的な計算に時間がかかる児童が多く、学習内容の理解はできても得点に結びつきにくい。	・応用力の前の、基礎基本の知識、技能を確実に身につけておく。 ・計算力をつけるため、反復練習の時間をもつ。 ・漢字学習で家庭学習としてタブレットでのドリルを活用する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを持ち、ハンドサインを使って意思表示ができる児童が増えてきている。 ●文章題の読み取りが弱く、何を解いているのかわかっていない。 ●グループ活動になると、友達の意見を聞いて考えをまとめたり修正したり新しい考えを生み出したりすることに課題がある。	・問題の意図を理解し、正確に文章題を解くことができる。 ・自分の意見を持つと共に、対話を通して、相手と交流することができる。	・スピーチの時間を設け、文の構成や話し方の話型を意識させる。 ・物語文や説明文を読む機会を設けると共に、反復的に問題を解く。 ・ペアやグループ活動など様々な学習で、ねらいを明確にした対話の場面を設定する。	・グループワークでタブレットを活用し、「考えをまとめる・新しい考えを生み出す」ような話し合い活動を行う。 ・授業の中で、対話をする場面をもっと増やす。 ☆各学年でどのように対話の場面を設けているのか、詳しく知りたい。6年間を系統立てて取り組めると、子どもにも力がつくのではないか。	・朝のスピーチの質問時に、全体からの質問とともに、隣の席の児童は必ず質問するというルールを作り、内容にあった質問を全員がするようになった。 ・スマイルネクストを活用し、班ごとに付箋で色分けして意見や考えを出し合い、似た意見や違う意見をまとめる活動ができた。 ・学習で分かったことを近くの友達に説明したり、資料等から読み取れることをペアで話し合ったりする時間を設けた。 ・国語の段落構成について、班で話し合い理由も考える時間を設けた。 ・家庭科での実習などで、計画からふりかえりまで班で話し合い、最後にはよかったところを伝え合う。 ・全員が話しやすい雰囲気作りに配慮した。	・話形を意識した話し合い活動を取り入れる。 ・タブレットを積極的に使い、意見交換や話し合いの場として活用する。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○最後まであきらめずに、学習に前向きに取り組む児童が多い。 ●自ら課題や問題点を見つけたり、考えたりしようとする意識が低い。 ●正確・丁寧に取組まず、字が雑になったり、計算ミスが多くなったりする。	・めあてを持って学習に取り組む、自分の学習の状況をしっかりと振り返ることができる。 ・一つ一つの課題に丁寧に取組むことができる。	・めあてを意識した振り返りの時間を設け、振り返りの視点を提示する。(振り返りカードを活用) ・家庭学習や学力アップタイムなどを中心に、じっくり丁寧に時間をかけて取り組める時間をつくる。	・学習に興味を持てるような導入の工夫をする。 ・振り返りの時間を必ずとるようにする。 ・振り返りを毎時間するのは難しい。 ・家庭学習をじっくり丁寧に取り組めるよう、保護者(各家庭)にも協力してもらった。	・振り返りや考えを説明する場面で、キーワードとなる大きな言葉を示したことで、児童の発表意識に高まりが見えた。 ・前時の振り返りから、次時につながる言葉をひろいあげ、新たなめあてをつくれることもあったが、時間の余裕がなく、振り返りは書くだけで共有できないことが多かった。 ・プリントや自主学習の宿題で、必ず振り返りをさせることによって、児童のやる気と丁寧さの向上が見えた。 ・課題に対して丁寧に取組む児童が少しずつ増えてきたが、家庭学習については保護者の協力も得られにくい状況で、見直しの習慣がなかなかつかない。 ・一人一人に合った1日のめあてを設定し、できたらシールを貼ることで達成度がわかり、児童の意欲が向上し、次の目標設定につながっている。	・振り返りの視点を全校で共通理解し、よい振り返りの言葉があったら共有する。 ・家庭学習の大切さについて保護者に知らせる機会を多く持つ。 ・家庭学習でも必ず振り返りをさせる。(振り返りカードの活用)

令和6年度 学力向上ロードマップ

